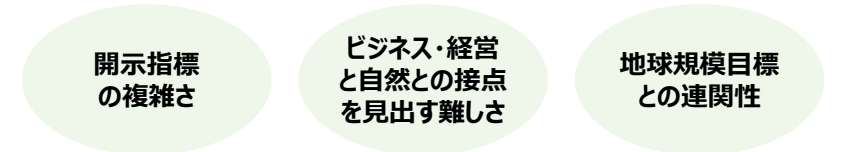


# 日本生命 | ネイチャーポジティブに向けた取組み

- 日本生命は、2025年8月に**企業のさまざまな事業や取組みを自然の回復の観点で定量的に測定・評価**する手法をまとめた「**日本生命ネイチャー・ファイナンス・アプローチ**」を策定。
- 自然の回復については、緊急性が極めて高い状況にありながら、GHG排出量という絶対的な測定指標がある気候変動に比して、**その複雑性から社会全体での取組みが思うように進んでこなかった**。自然回復の取組みに対する資金動員を加速するためには、取組みを評価する尺度が重要との認識のもと、**科学的見地に基づく実用的かつシンプル**な指標を整理した当アプローチを策定。

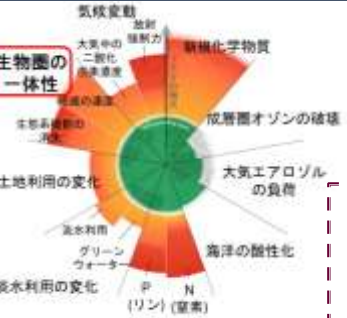
## ① 企業が抱える悩みや課題



## ② 当アプローチ策定にあたり、重視したポイント

- 1 地球規模の目標（例：プラネタリーバウンダリー）に対して当該投融資が**どの程度貢献しているかを定量的に測定**できること
- 2 企業や金融機関が具体的な行動を起こせるよう、**科学的な妥当性と正当性を備え**つつもできるだけ**シンプル**な枠組みとすること
- 3 自然に直接関係する農業や林業等に限らず、**幅広いセクターに適用可能**な枠組みとすること

## ③ プラネタリーバウンダリーを用いた基本コンセプト



地球の臨界点を示す「**プラネタリーバウンダリー**」を用い、**生物圏の一体性**を示す「**生態系(HANPP/NPP)**」、**生物種(絶滅種数)**」の2指標を活用

**NPPとは**: 植物が光合成を通じて作り出す炭水化物で、**生物がその生存や成長に利用するエネルギー量**。  
**HANPPとは**: **人間が利用するNPP**。NPP全体との残差が人間以外の生物が利用するエネルギーであり、これを増やすことが目的。

## ④ 当社ネイチャー・ファイナンスの考え方（全体像）

| 対象領域              | 自然回復の方向性    | 対象事業候補例                                                                                                                                                        | HANPP/NPP                               | 生物種                                      | DNSH                               |
|-------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------------------------------|------------------------------------|
| 陸域<br>植物<br>(森林等) | HANPP<br>低減 | ① 森林伐採を伴う農地や放牧地拡大を緩和・回避する事業<br>➤ 既存の農地を効率的に活用した農産物（例：再生農業等）<br>➤ 農・畜産品の代替材の開発（例：代替たんばく質等）                                                                      | 減少が回避されたNPP量<br>※実現したと仮定するに<br>基づく議論が必要 | 対象外<br>※減少回避状況を<br>直接観察<br>できないため<br>対象外 | 環境および社会面<br>の観点から<br>顕著な悪影響が<br>無い |
|                   |             | ② 森林伐採を伴う天然資源（鉱物、繊維、ゴム、水等）の開発や利用を緩和・回避する事業<br>➤ 対象となる天然資源の3R事業や関連取組み<br>➤ 対象となる天然資源の代替材の開発（例：合成鉱物等）                                                            |                                         |                                          |                                    |
|                   | NPP<br>増加   | ③ 森林伐採を伴う都市インフラ開発を緩和・回避する事業<br>➤ 周辺の森林帯へ拡大する都市における高層集合住宅地の開発事業<br>➤ 代替インフラの開発（例：道路に代わる空または海の交通網等）<br>④ 森林保全・再生事業（例：植林、間伐）<br>※公益的または慈善活動に留まらず、収益性ある森林事業を幅広くカバー | NPPの<br>増加量                             | 対象生物種の<br>個体数増<br>※絶滅危惧種に<br>焦点を当てる      |                                    |

➡ 対象事業によってわずかでもHANPP減少、NPP増加、生物種の個体数増が実現すれば、当社ネイチャー・ファイナンスとして適格

1. リデュース、リユース、リサイクルの総称 2. 木材・パルプ、カーボンクレジット、森林が蓄える水源をいれた数値、自然生態を伴う不動産、自然関連レジャーサービス等

- ・**陸域での活動を対象**に、森林伐採の回避につながる、人間が消費するエネルギー量の削減取組みを「**HANPPの低減**」として認識
- ・森林の増加を意味する「**NPP増加**」では、NPP増加量とともに**生物種の個体数増加**も確認
- ・上記に加え、「**DNSH (Do No Significant Harm)**」の考え方も併せて適用

## ⑤ 今後の展望・課題

- 【今後の展望】
- ・当アプローチの考え方に準拠した**投融資の実行**（ファンド組成等）
  - ・**投融資先エンゲージメント**への活用
- 【課題】
- ・**データセットのメッシュ**（アプローチ内では500m×500m）
  - ・**生物種の計測方法（コスト面等）**や、絶滅危惧種以外の生物種へのアプローチ
  - ・**海域**への適用
- ⇒アカデミアや企業との研究や技術的な進歩を通じて、進化させていく。